

2023年度 事業 報告

2023年1月1日から、2023年12月31日まで

—VISION2032—

「江戸城全体整備構想の策定並びに歴史文化資源等を活かした観光まちづくり」

1. これまでの取組：

当会は2017年1月財団の設立以来、旧江戸城及びその城下町の歴史的文化遺産の価値を活かしたまちづくりについて調査研究し、その成果や今日的意義について、普及・啓発、提言活動を行い、我が国の文化・芸術の振興に並びに歴史文化資源を活かした観光まちづくりの形成に寄与することを目的としてきた。普及・啓発、提言に伴う活動は、次の通りである。

- 2017年 「江戸東京歴史文化ルネッサンスビジョン」を策定し、
天守単体の再建から江戸城全体整備構想へと転回
- 2019年 調査研究会準備プロジェクトを設置
- 2020年 調査研究会を設置し、同年、今日的意義を検証
- 2021年 「江戸東京歴史文化回廊・調査研究報告書」の策定
- 2021年 提言書「VISION 2032」歴史文化資源等を活かした観光まちづくり」を策定
- 2022年 第一次提言活動報告を作成
- 2023年 「よみがえれ 江戸城」リーフレット作成

・ 行政等への提言活動と「VISION 2032」の検証

東京は日本一文化財が多く、同時に伝統工芸や産業も日本有数の都市である。よって、文化財保護法、歴史まちづくり法等の重要性は言うまでもない。

特に、東京都が策定すべき「大綱」は、江戸城史跡という地域（千代田区等8区）が策定する「文化財保存活用地域活用計画への支援策である。同時に大綱・「特化した取り組み方針」も江戸の文化圏に関わる有形無形の文化財の保存・活用計画への地域等への支援策である。

即ち、東京全体を俯瞰する歴史文化まちづくりにとって、これらは、極めて重要な政策であるが、東京都及び文化財保護法の主管か所である文化庁の現段階における不十分な取組は、否めない。引き続き、関連する行政及び民間へ提言活動を進めていく。

・ 江戸城全体整備計画の策定及び公益認定の取得をめざすことを確認

2023年度は、「VISION 2032」の普及・啓発、提言活動を振り返り、会員、関係個所、有識者等の視点を軸に検証を行った。特に、江戸城に関連する自治体は、歴史まちづくり推進の希望はある一方、縦割り行政の実状や都市の再開発の推進から、東京全体のを俯瞰するまちづくりの取り組みは、進まずの現状にある。引き続き、新たな視点を検討し、粘り強く、行政や民間、関係機関への提言活動を進めていく。

一方、人・モノ・特に、相応の調査研究費用が必要である「江戸城全体整備計画の策定」に向けては、厳しい状況も踏まえつつ、出来るところから進める「時」であると、改めて認識を深めた。

また、江戸城に関わる文化芸術及び観光振興を公益目的事業として明確化する為にも、寄付優遇税制の取得のためにも、難関といわれる「公益認定の取得」を目指し、鋭意、取り組みを進めていく。

寄付税制優遇税制も得て、多くの人々の参加の機会を募り、調査研究費用に充当することとしたい。

II. 普及・啓発・提言活動：

これらの活動の全体像は、市民と有識者、歴史文化資源を活かした観光まちづくり等の関係者とのコミュニケーションを軸にし、その活動はホームページを通し速やかに広く社会一般に公開した。

1. 普及・啓発活動

1) 有識者の講演、オンラインセミナー

1. アドボガシー入門 (NPO 法人セイアン代表理事 関口宏樹) ZOOM セミナー

アドボガシーとは政治や経済、社会等の制度へと影響をあたえる為に、個人やグループが行う活動、運動を意味する。社会にある様々な課題に対して政策を動かしていく、第一線でNPOが活動しやすい仕組みづくりや実状を第一線で取り組む若きリーダーから学ぶことができた。

2. 今なぜ、水辺の再生か (陣内秀信 法制大学名誉教授) ZOOM セミナー

東京の地形、生態系、自然条件には独特の立地条件を背景とした多種多様な水の空間あり、今こそ改めて再発見し、都市づくり、地域づくりに活かすことがより、魅力ある都市東京になる。

3. 「今に残る江戸から明治の激動期の写真」(岡塚章子 江戸東京博物館都市歴史研究室長)

9月30日日比谷図書文化館で開催

江戸から明治に移る激動期、江戸城の栄華の跡を基調な数々の写真から観ることができた。

4. 「江戸図屏風」の謎 (小澤弘 淑徳大学参与教授 客員教授 江戸東京博物館名誉研究員)

10月日日比谷図書文化館で開催 何故、何の目的で誰が、いつ、描いたのか、

江戸図屏風には武家屋敷町人地に5000人の人物が描写され、三代家光の1632年外濠が完成し1637年天守完成した頃の屏風図である事等、多くを学ぶことができた。

2) 会報誌やリーフレット発刊及びホームページへの掲載

「第一次提言活動の報告」、「提言活動のさらなる推進」、特別企「江戸東京歴史文化回廊、江戸城と本丸御殿」、「よみがえれ 江戸城」を含めて年4回の発行となった。同時に会報誌、ホームページを通して速やかに、広く社会一般に公開した。

III. 調査研究活動：

2023年度は、特別な調査研究活動は行わず、これまでの、普及・啓発、提言活動を振り返り、VISION 2032等の検証を行い、次なる課題の方針、即ち、二つの課題、「江戸城全体整備構想の策定」並びに「公益認定取得」を明確化した。

以上